

水稲の病害虫防除と熱中症対策 〈中央地区〉

【いもち病】 葉いもちが、穂いもちに進展しないよう、下表の**確認防除を実施**しましょう。

ほ場をよく見回り、発生が認められた場合は、速やかに**ブラシフロアブル**等で防除を行いましょ。

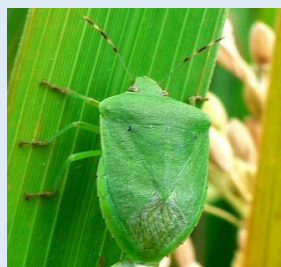
確認防除	防除時期		使用薬剤	10 a 当たり散布量	使用時期
	いずれか使用	初発10日前～初発時	オリゼメート粒剤	3～4 kg	収穫14日前まで、2回以内
	初発20日前～初発時	コラトップジャンボP	小包装10～13個 (500～650g)	出穂5日前まで、2回以内	
	初発時	ブラシフロアブル	1000倍・100ℓ	収穫7日前まで、2回以内	

【斑点米カメムシ】 7月1日発表の香川県病害虫発生予報第4号では、予想発生量は「**やや多**」でした。

栽培しおりに記載の薬剤防除（必須2回目、3回目）を基準に、**適期防除**を行いましょ。

また、**畦畔等圃場周辺の除草**を行い、カメムシ類の発生源を少なくしましょ。ただし、出穂直前に行うと、カメムシ類の圃場への移動を促すことになるので、雑草の刈り取りを行う場合は、**出穂10日前まで**に行いましょ。

また、休耕地はミナミアオカメムシの繁殖場所になるので、耕起等によって雑草の少ない状態を保ちましょ。



近年増加傾向。
出穂期に籾の基部を吸汁されると不稔籾となり減収する。

ミナミアオカメムシ ホソハリカメムシ アカスジカスミカメ クモヘリカメムシ イネカメムシ

【農作業中の熱中症を予防しましょ！】

全国では毎年、約30名の方が農作業中の熱中症により死亡しています。死亡事故の**約85%**が**7～8月に発生**しています。下記の**予防のポイント**を参考に予防しましょ。

その1 暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しの良い場所で作業

その2 こまめな休憩

喉の渴きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給

その3 単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う

その4 熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣類の着用、空調服や送風機の活用